

# 富良野市における調査結果の概要

令和6年9月 富良野市学力向上推進プロジェクト

令和6年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、第1次富良野市教育振興基本計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」のもと、教育の原点である知・徳・体の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に「すべては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、今後の本市の教育施策や学校の取組に生かしながら、本市教育を一層充実させてまいります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

今後も、これまでの取組の成果を生かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながることはないよう御理解をお願いいたします。

## 1 調査の概要

### ◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ◆調査日

令和6年4月18日（木）

### ◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

### ◆調査事項

- 児童生徒：教科調査(国語、算数・数学)、質問調査
- 学 校：質問調査

### ◆調査問題

- ・学習指導要領で育成を目指す、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を問う問題を出題。
- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

### ◆今年度の調査の特徴

- ・質問調査について、学校質問及び児童生徒質問は、全ての学校でオンライン方式により実施。

## 2 教科に関する調査結果の概要について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、「平均正答率を全国平均以上にする」ことを目標に掲げております。

【小学校】※ 同等－全国平均正答率との差が3ポイント以内

国語は、全国平均正答率を上回る結果でした。

算数は、全国平均正答率と同等の結果でした。

【中学校】※ 同等－全国平均正答率との差が3ポイント以内

国語は、全国平均正答率と同等の結果でした。

数学は、全国平均正答率を下回る結果でした。

小学校第6学年では、国語は全国平均正答率を上回り、算数は全国平均正答率と同等、中学校第3学年では、国語は全国平均正答率と同等、数学は全国平均正答率を下回る結果になりました。

この結果につきましては、以下の取組による成果であると考えられます。

＜富良野市としての取組＞

- ・道教委事業（授業改善推進チーム活用事業【令和2～4年度】・新しいかたちの学びの授業力向上推進事業【令和5年度～】）による小学校のT T指導、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・義務教育指導監の学校経営指導訪問における組織力向上に向けた指導助言
- ・教育局指導主事の学校教育指導における各学校の校内研修の充実に向けた指導助言
- ・教職員の加配による指導方法工夫改善の取組
- ・小規模校での個別最適化された学びの充実
- ・長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着
- ・ICT支援員の巡回による各学校のニーズに応じたICTに係る校内研修の推進
- ・学校司書の配置による読書活動の推進
- ・特別支援教育支援員の配置

この調査結果を踏まえ、『第1次富良野市教育振興基本計画(令和5年度～令和7年度)』を基軸とし、学力向上に向けた質の高い教育活動が展開できるよう推進していきます。

### 『第1次富良野市教育振興基本計画(令和5～7年度)』

第1次富良野市教育振興基本計画(令和5年度～令和7年度)は、「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。

子どもたちに変化の激しい時代を生き抜く力を育み、生涯にわたって活躍できる人材を育成することが求められていることから、第1次富良野市教育振興基本計画を策定しました。

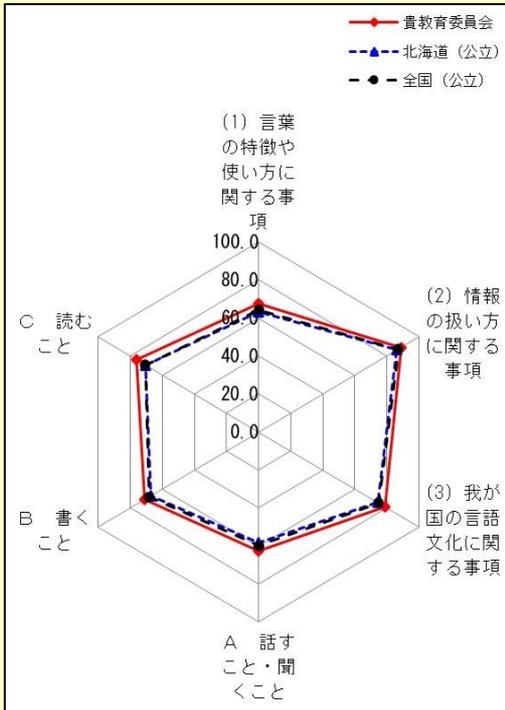


### 3 各教科の領域別の状況

◇…比較的できている点◆…課題のある点

#### 小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



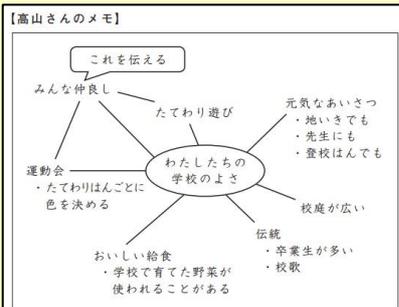
#### 〈調査結果のポイント〉

- ◇ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。
- ◇ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- ◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに課題が見られる。【2-(1)】
- ◆ 漢字を文の中で正しく使う問題(【2三ア】)、条件に合わせてまとめる問題(【3三】)や資料の意図を捉える問題(【3四】)に無回答率が高い。

### ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

#### 「書くこと」【2-(1)】

- ◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに課題が見られる。



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

高山さん

- 4 集めた情報の共通点を考えた。
- 3 他の人の考えを取り入れて考えた。
- 2 書きやすい順番を考えた。
- 1 賛成と反対の両方の立場から考えた。

【高山さんのメモ】を書き、集めた情報の中から、「たてわり遊び」と「運動会」の関係を結び付け、「みんなが仲良しになる」という共通点を考えていることを捉えることが求められています。

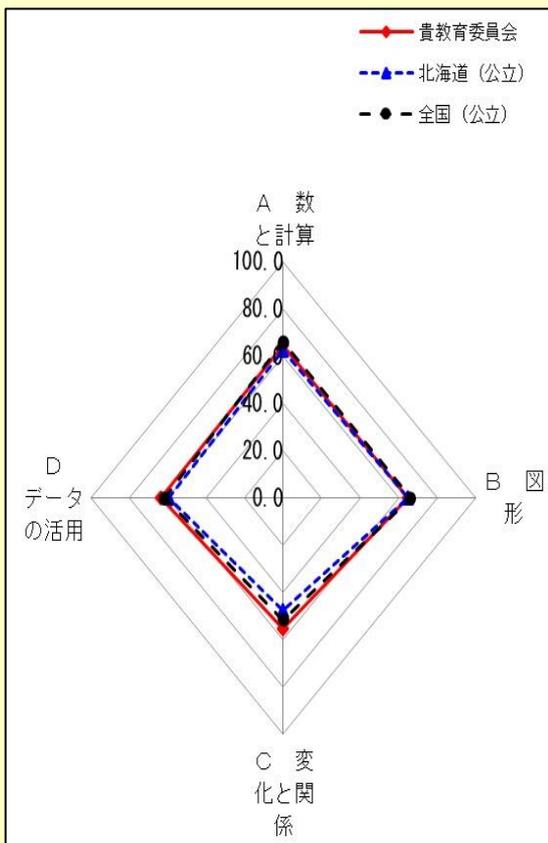
#### 指導改善のポイント

図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりできるよう指導することが重要です。



## 小学校算数

全国を 100 とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



### 〈調査結果のポイント〉

- ◇ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができている。
- ◇ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することができている。
- ◆ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られる。【1 (1)】
- ◆ 直方体の見取図について理解し、かくことに課題が見られる。【3 (1)】
- ◆ 計算の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題（【2 (1)】）や図形を構成する要素に着目し、体積の求め方を式に表す問題（【3 (3)】）に無回答率が高い。

## ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

### 数と計算【1 (1)】

- ◆ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られる。

(1) ゆうまさんは、折り紙を 72 枚持っています。  
 ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より 28 枚少ないです。  
 こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

ア  $72 + 28$

イ  $72 - 28$

ウ  $72 \times 28$

エ  $72 \div 28$

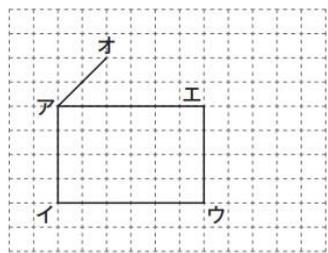
2人が持っている折り紙の枚数の関係について図に表すなどして、こはるさんが持っている折り紙の枚数が、ゆうまさんが持っている折り紙の枚数より 28 枚多いことを捉えさせる必要があります。

### 指導改善のポイント

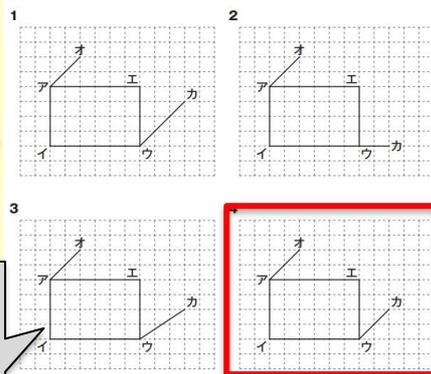
数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるように指導することが重要です。

## 図形【3（1）】

- ◆ 直方体の見取図について理解し、かくことに課題が見られる。



辺ウカが辺アオに平行で長さが等しいことを理解している必要があります。



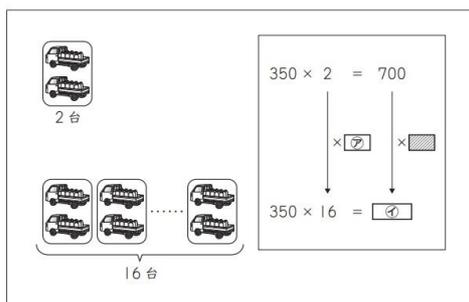
### 指導改善のポイント

図形を構成する要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら、立体図形を見取図で表すことができるよう指導することが重要です。

## 数と計算【2（1）】

- ◆ 計算の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題（【2（1）】）に無回答率が高い。

㊦に入る数に着目したときの㊧の求め方を、式や言葉を使って書きましよう。そのとき、㊦に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましよう。



<正答の条件>

次の①、②の全てを書き、イを5600と書いている。  
 ① 16が2の8倍であることを表している式や言葉  
 ② 700の8倍になることを用いて、 $350 \times 16$ の積イを求める式や言葉

<正答例>

$16 \div 2 = 8$ で、かける数の16は、かける数の2の8倍です。  
 $350 \times 16$ の積は、 $350 \times 2$ の8倍だから、 $700 \times 8 = 5600$ です。

### 指導改善のポイント

問題場面の数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるように指導することが重要です。

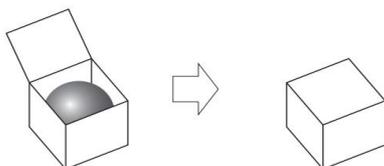
## 図形【3（3）】

- ◆ 図形を構成する要素に着目し、体積の求め方を式に表す問題（【3（3）】）に無回答率が高い。

(3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

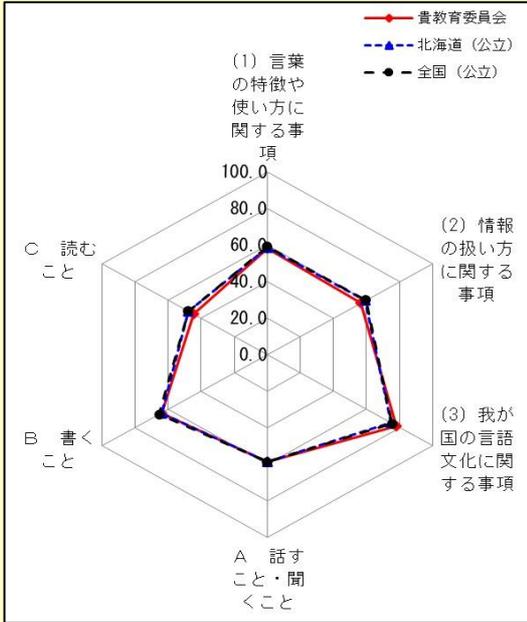


球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一边の長さが、ボールの直径の長さと同じになることを捉えさせる必要があります。

### 指導改善のポイント

図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えることができるよう指導することが重要です。

<正答例>  
 $22 \times 22 \times 22$



〈調査結果のポイント〉

- ◇ 必要に応じて、質問しながら話の内容を捉えることができている。
- ◇ 文の成分の順序や照応について理解している。
- ◆ 目的に応じて、必要な情報に着目して要約することに課題が見られる。【2四】
- ◆ 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られ、無回答率が高い。【3三】
- ◆ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く問題に無回答率が高い。【3四】

「読むこと」【2四】

- ◆ 目的に応じて、必要な情報に着目して要約することに課題が見られる。

（着目する内容）

0 0

「選んだ着目する内容を塗りつぶしなさい。」

ア 筆名、葉の形を表す言葉をグループ分け、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

イ 筆名、数学や物理学と生物学とは学問ごとのよき特徴を述べている。

<解答例 ア>

葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

葉の形を表す言葉をグループ分け

グループごとの特徴

<解答例 イ>

数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

学問ごとの特徴

指導改善のポイント

概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、目的を明確にした上で取り組ませるとともに、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約できるよう指導することが重要です。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」【3三】

- ◆ 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られ、無回答率が高い。

指導改善のポイント

第1学年で学習した900字程度の漢字を含め、学年別配当表に示している1026字の漢字を文や文章の中で使うことができるよう指導することが重要です。

三 「みちたりた」

正答 満ち足りた

## 「書くこと」【3四】

- ◆ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く問題に無回答率が高い。

イ

ア

あの日から数日が過ぎた。

イ 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。  
ア あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

<解答例①>

ア 窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

イ 「窓から差し込む光を浴びながら」のように情景を描写することで、「僕」の期待感が印象的に伝わる。

<解答例②>

ア 僕は今日もいつもの場所でじっと待っている、あの日喜びを胸に抱いて。

イ 倒置を用いることで、次の出番を待つ「僕」の心情が「あの日」に感じた喜びとつながっているということを強調することができる。

<解答例③>

ア でも、君との距離は、もう遠くない。

イ 1の場面の表現と似た表現を用いることで、「寂しさ」から「期待」に変化した「僕」の心情が分かりやすく伝わる効果がある。

工夫した表現

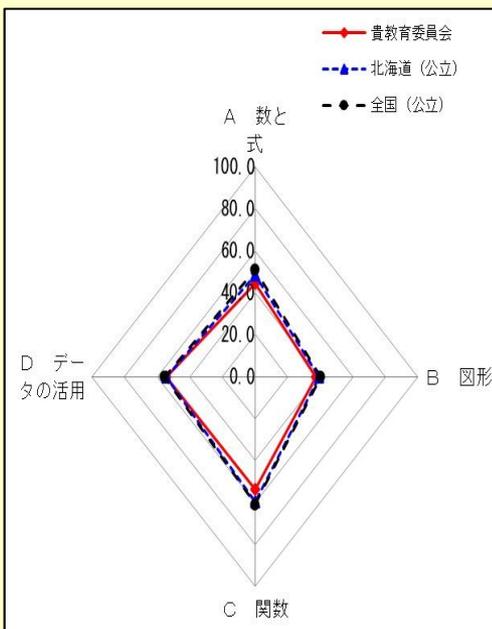
効果

## 指導改善のポイント

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、より効果的な語句や表現を選んで描写したりするなど、自分の考えがよりよく伝えることができるよう指導することが重要です。

## 中学校数学

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



## 〈調査結果のポイント〉

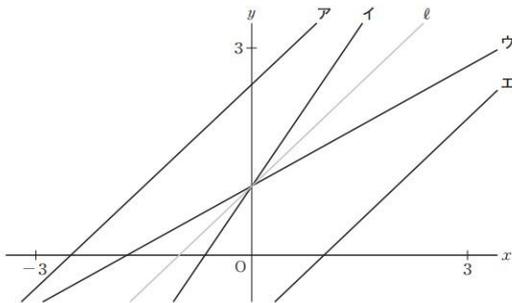
- ◇ 簡単な場面について、確率を求めることができている。
- ◇ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ◆ 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題が見られる。【4】
- ◆ 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。【6(3)】
- ◆ 筋道を立てて考え、証明する問題に無回答率が高い。【9(1)】

## ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

### 「関数」【4】

◆ 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題が見られる。

4 一次関数  $y = ax + b$  のグラフについて考えます。下の図の直線  $\ell$  は  $a = 1$ 、 $b = 1$  のときのグラフです。直線  $\ell$  に対して、 $b = 1$  を変えずに  $a$  の値を 1 より大きくしたときのグラフが、直線アからエまでの中にあります。それを 1 つ選びなさい。



$$y = ax + b$$

<条件>

※  $a = 1$ 、 $b = 1$  ※  $b = 1$  は変えない



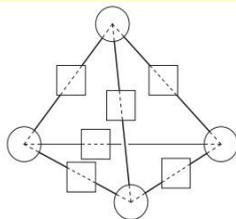
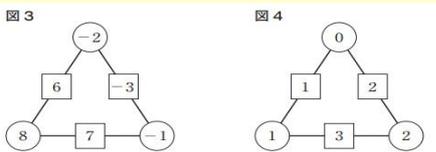
- $a$  の値を大きくすると、グラフの傾き具合が大きくなること
- $a$  の値だけを変えても、 $x$  軸や  $y$  軸の平行移動はしないこと

### 指導改善のポイント

具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるために、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるよう指導することが重要です。

### 「数と式」【6 (3)】

◆ 統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。前ページの予想のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

<正答の条件>

「～は、……になる。」という形で、次の (a)、(b) について記述

- (a) ～が、「□に入る整数の和」である。
- (b) ……が、「○に入れた整数の和の 3 倍」である。

<正答例①>

□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の 3 倍になる。

<正答例②>

○に入れた整数の和は、□に入る整数の和の  $\frac{1}{3}$  倍になる。

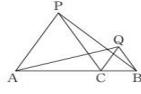
### 指導改善のポイント

様々な事象における問題解決の場面において、数量や数量の関係を簡潔、明瞭に表したり、能動的に処理したり、その意味を読み取ったりできるよう指導することが重要です。

## 「図形」【9（1）】

◆ 筋道を立てて考え、証明する問題に無回答率が高い。

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあって、 $AQ = PB$ になると予想しました。  
桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $AQ = PB$

<正答の条件>

次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの

- (a)  $AC = PC$  (b)  $CQ = CB$   
(c)  $\angle ACQ = \angle PCB$  (d)  $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

<正答例>

正三角形の辺はすべて等しいから、  
 $AC = PC \dots \textcircled{1}$   $CQ = CB \dots \textcircled{2}$   
三角形の1つの内角は $60^\circ$ より、  
 $\angle ACQ = 60^\circ + \angle PCQ$   $\angle PCB = 60^\circ + \angle PCQ$   
よって、 $\angle ACQ = \angle PCB \dots \textcircled{3}$   
 $\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3}$ より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、  
 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

### 指導改善のポイント

図形についての考察場面において、形や大きさ、位置関係に着目して観察し、ある**事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができるよう指導することが重要**です。

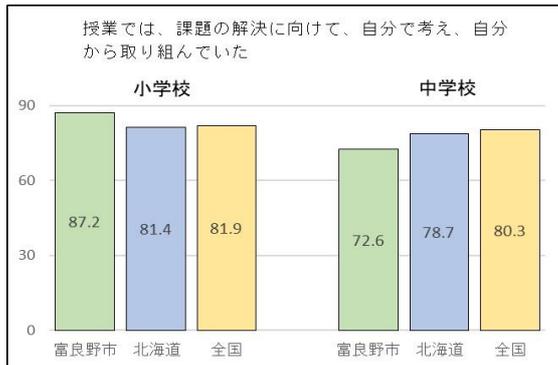
## 4 質問調査結果（児童生徒、学校）

※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。

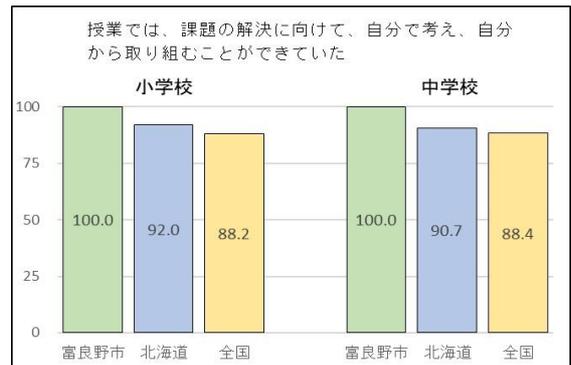
### (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

#### ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する項目

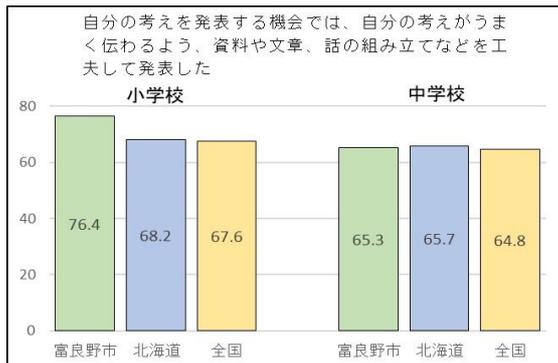
〔児童生徒質問〕



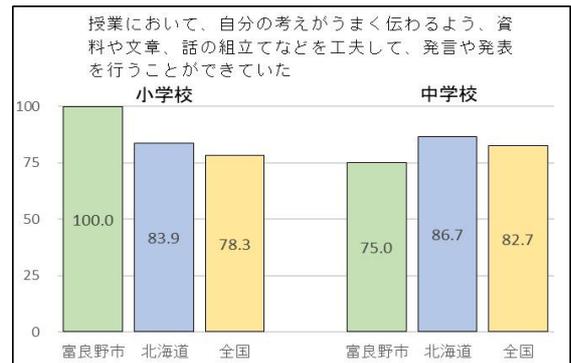
〔学校質問〕



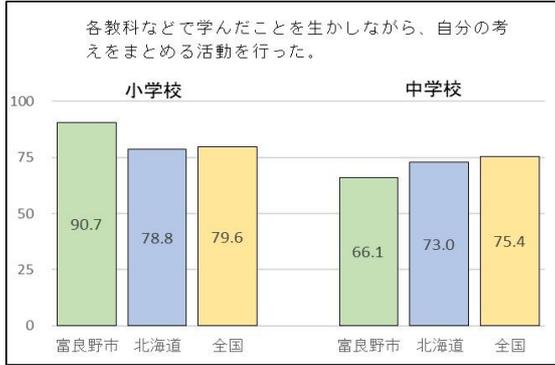
〔児童生徒質問〕



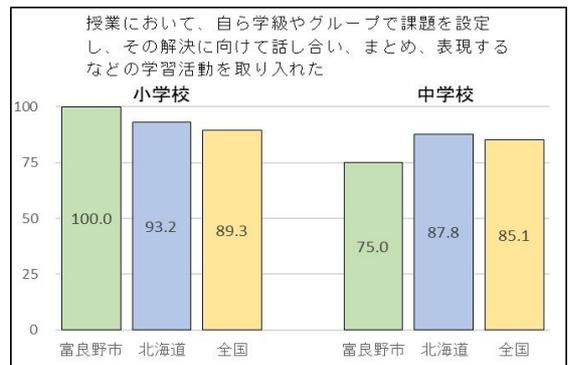
〔学校質問〕



〔児童生徒質問〕



〔学校質問〕

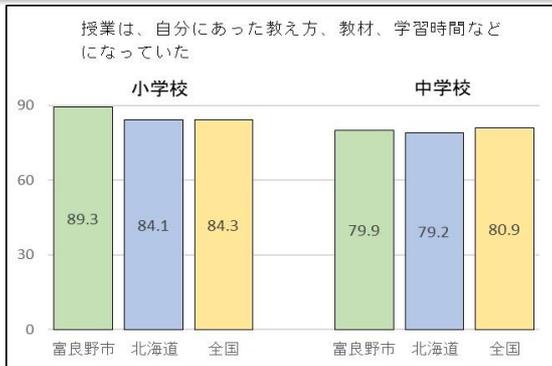


分析結果のポイント

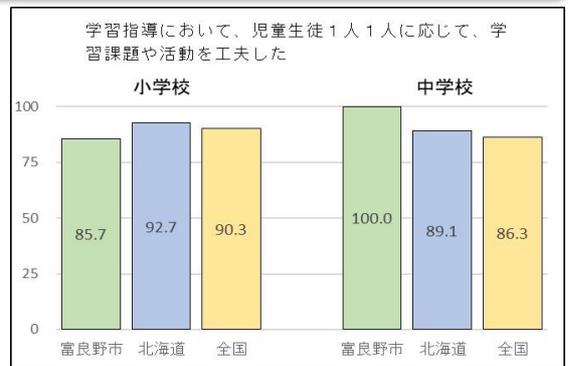
- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する項目では、市内全ての小学校で取り組んだことにより、肯定的な回答をした児童の割合が、昨年度よりも上昇したと考えられます。
- ◆ 中学校においては、項目によって一部の学校の取組にとどまっていることから、生徒が自分の考えを工夫して発表したり、まとめたりする活動により一層取り組む必要があります。

② 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

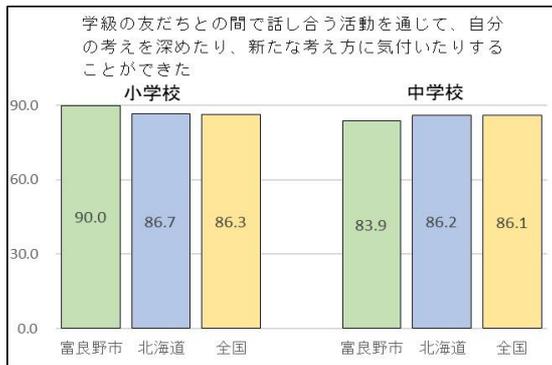
〔児童生徒質問〕



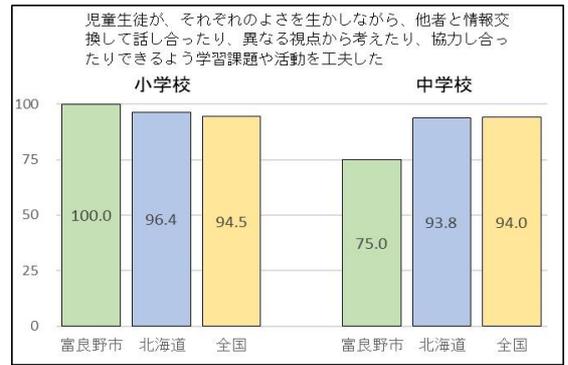
〔学校質問〕



〔児童生徒質問〕

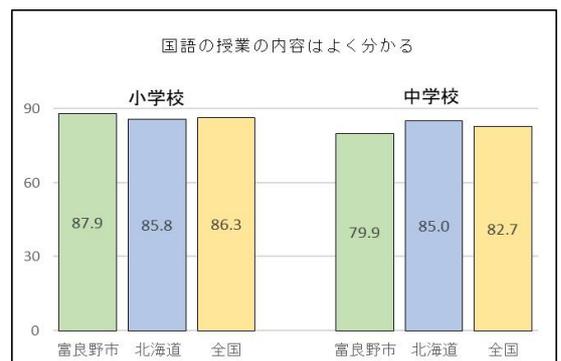


〔学校質問〕



③ 各教科の状況

〔児童生徒質問〕



〔児童生徒質問〕



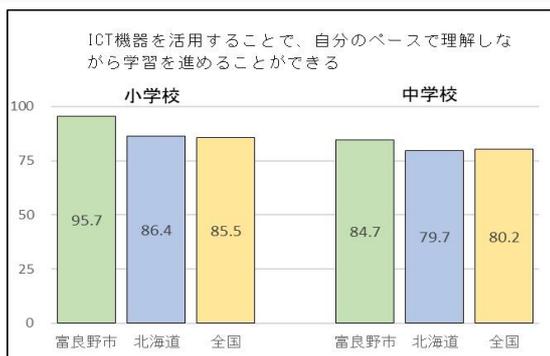
分析結果のポイント

- ◇ 各学校において、児童生徒1人1人に応じて、学習課題や活動の工夫を行ったり、意図的に話し合う活動に取り組んだりしたことにより、児童生徒自身が、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたと実感できていると考えられます。
- ◆ 中学校において、特に数学への興味・関心や学習内容の理解度の割合が低いことから、説明に終始するのではなく、生徒が主体的に問題発見・解決の過程を遂行していく学習活動を位置付けるなど、授業改善を一層、進める必要があります。

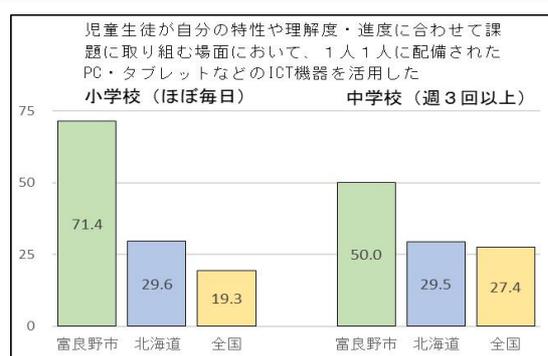
(2) ICTを活用した学習状況

① 「個別最適な学び（個に応じた指導）」 「協働的な学び」におけるICTの活用状況等

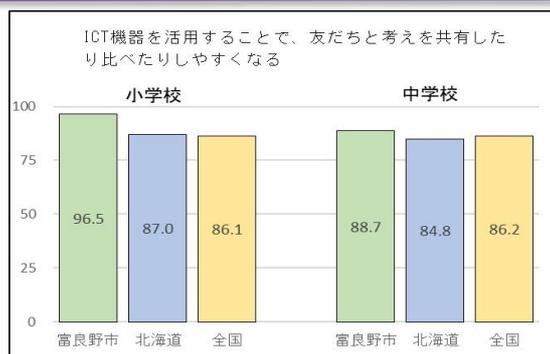
〔児童生徒質問〕



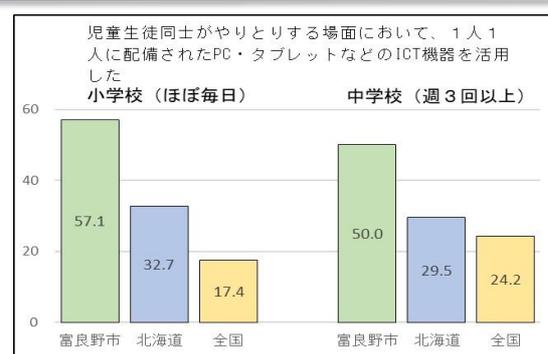
〔学校質問〕



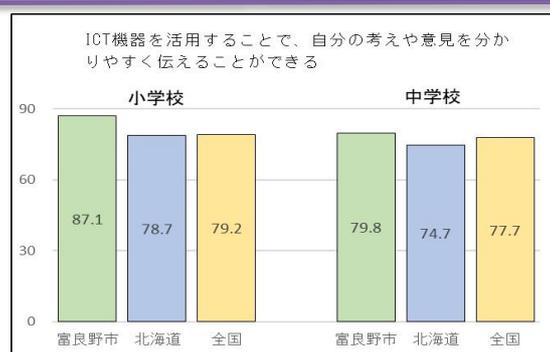
〔児童生徒質問〕



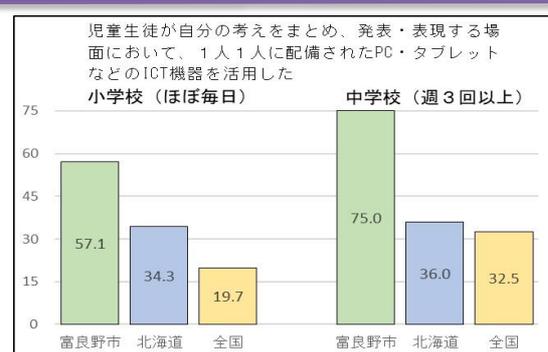
〔学校質問〕



〔児童生徒質問〕



〔学校質問〕



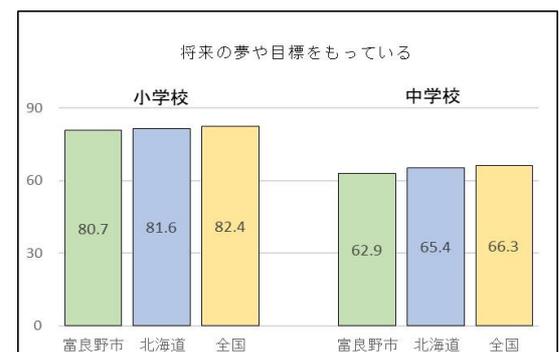
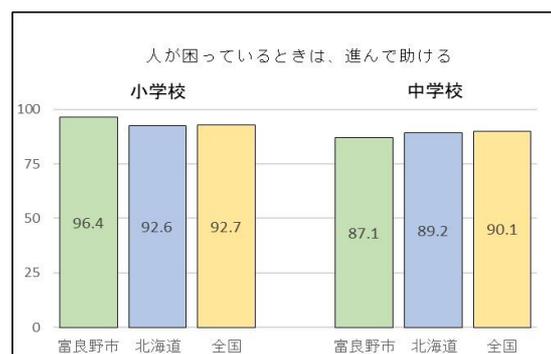
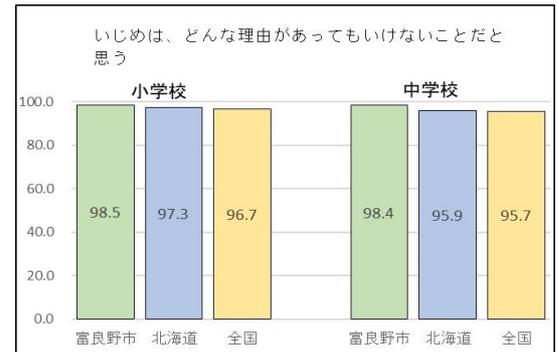
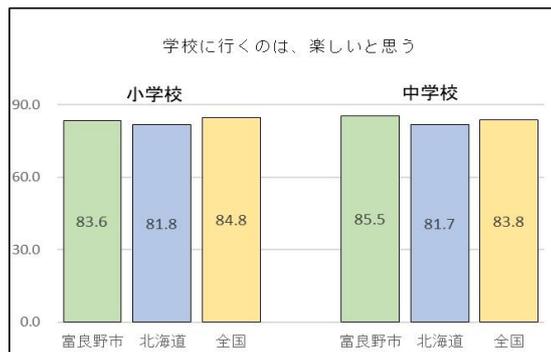
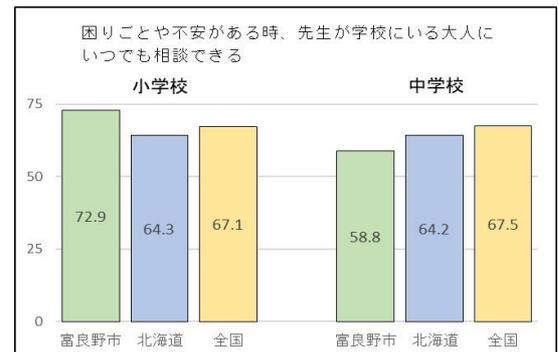
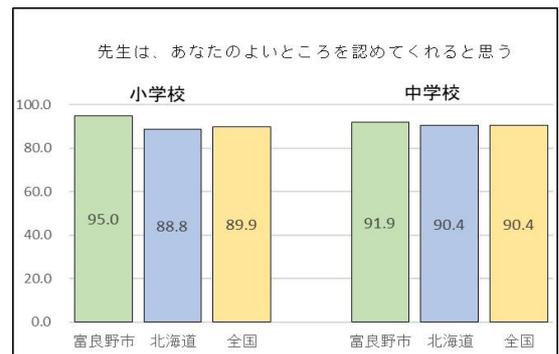
## 分析結果のポイント

- ◇ 各学校において、1人1人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を児童生徒の個に応じて活用したり、児童生徒同士のやりとりや発表・表現する場面で活用したりするなど、ICT機器の効果的な活用が進んだと考えられます。

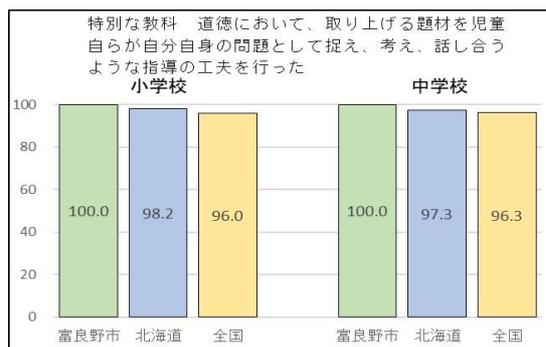
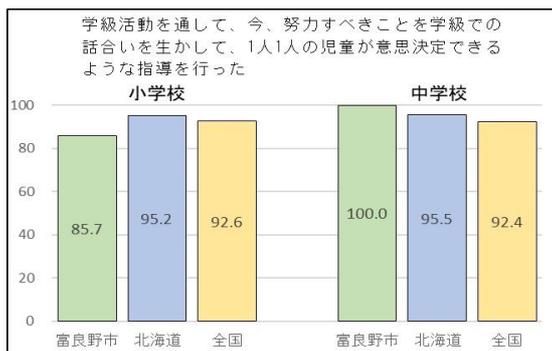
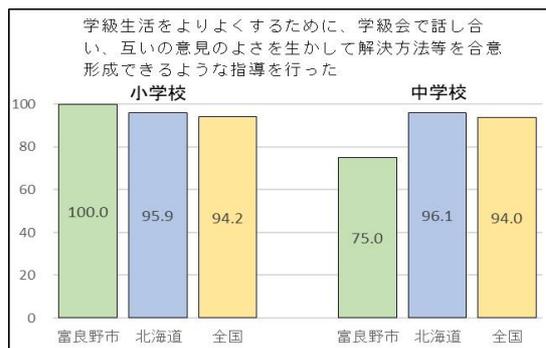
### (3) 児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況、生活習慣、家庭学習 等

#### ① 自己有用感・規範意識・キャリア教育 等

##### [児童生徒質問]



## [学校質問]

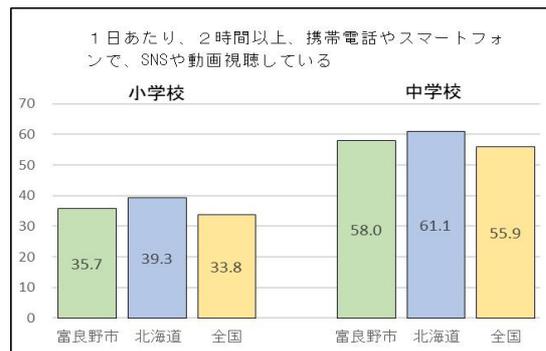


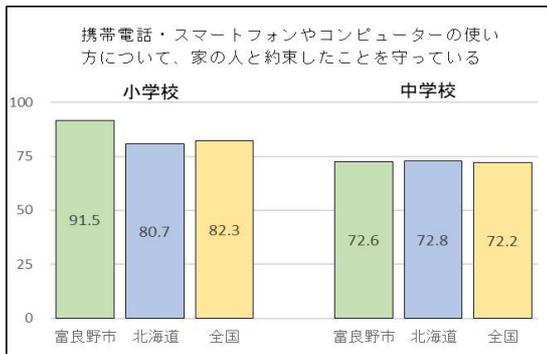
### 分析結果のポイント

- ◇ 各学校において、可能な限り多くの教職員で児童生徒の様子を見取るとともに、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導や児童生徒1人1人が意思決定できるような指導を行ったことにより、教職員に自身のよい点が認められたと感じ、児童生徒の自己肯定感が高まったと考えられます。

## ② 生活習慣

### [児童生徒質問]





### 分析結果のポイント

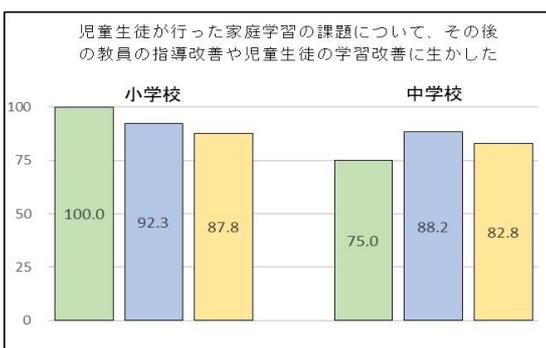
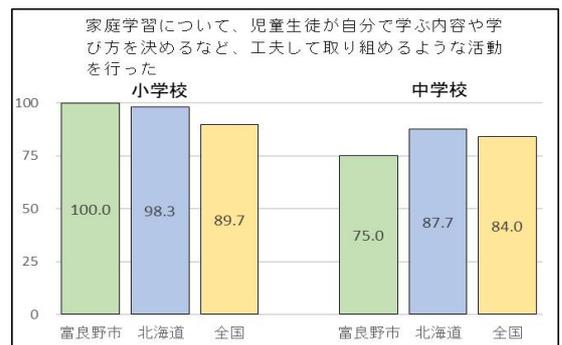
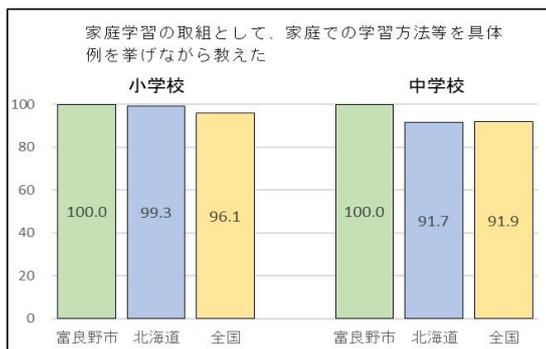
- ◇ 起床・就寝時間等、基本的な生活習慣は、おおむね身に付いています。
- ◆ 校種が上がるにつれて、1日あたりのSNS・動画視聴時間が延びるとともに、携帯電話やスマートフォン等の使い方に係る家庭での約束を守っている割合が下がる傾向にあります。

### ③ 家庭学習

#### [児童生徒質問]



#### [学 校 質 問]



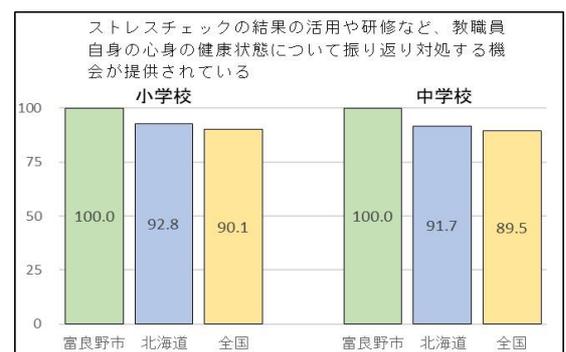
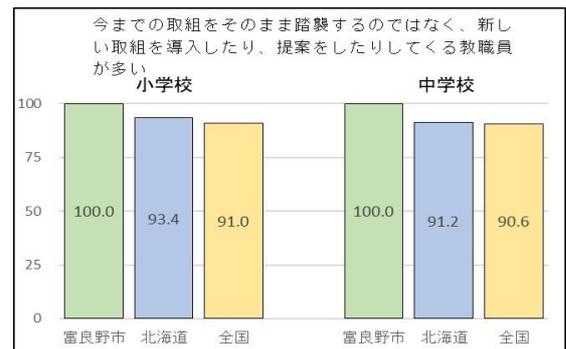
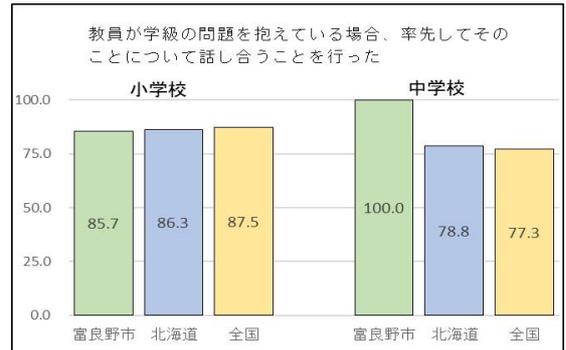
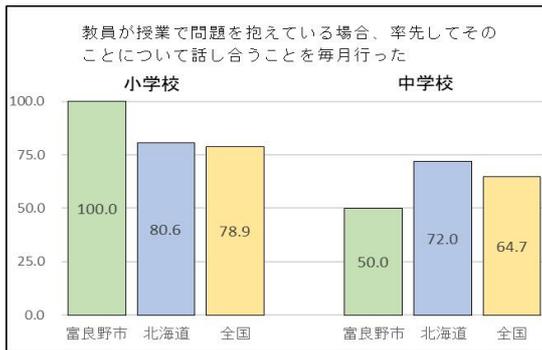
## 分析結果のポイント

- ◆ 校種が上がるにつれて、1日あたりの学習時間が短くなる傾向が見られることから、児童生徒の興味・関心や発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方等を促す指導が必要であると考えられます。

## (4) 学校運営の状況 等

### ① 職員風土について

#### [学 校 質 問]



## 5 改善のポイント

**学校では、子どもたち一人一人の学びをしっかりと支え、  
誰ひとり取り残さない教育を目指します**

- 学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。
- 児童生徒に身に付けさせるべき資質・能力を明確にし、単元や題材などのまとまりを通して到達させるための手立てを講じ、1単位時間の授業を大切に実施していきます。
- 目的や意図に応じて、自分の考えを書いたり、事象の成り立つ理由を説明したりできる場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、実態に即した意図的な働き掛けをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感できる授業づくりを進めるとともに、1人1台端末を活用して、児童生徒の多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に対応していきます。
- 学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に支援するとともに、学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための家庭学習や課題を設定します。

## 6 保護者・地域の皆様へ

先行き不透明な社会の中、貧困やヤングケアラー等、様々な課題を抱える子どもが増加しており、子どもの人権に十分に配慮し、一人一人を大切にされた教育が、ますます求められています。

これから未来を担う子どもたちが、未来を切り開いていくことができるよう、①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をとる力を身に付けさせる必要があります。

子どもの学ぶ力を支えるとともに、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、学校と家庭、地域が力を合わせる事が極めて大切です。

子どもたちの意思や意欲を尊重することが、子どもの主体性につながりますし、できた満足感や様々な体験が、子どもの自信につながります。いろいろな経験から、多くの失敗を重ねることも大切です。時には失敗から新たに気付くこともありますし、失敗を乗り越える力が付きます。子どもたちが、失敗を恐れず挑戦できるよう、様々なことを経験できる機会をつくるだけでなく、大人が個性や特性の違いを認め、安心して挑戦できる環境をつくり、子どもたちが挑戦する姿を温かく見守るなど、家庭における学びの環境を整えていきましょう。